

上智大生 殺害事件

未解決 30 年 願う民法の時効撤廃

「遺族の立場から考えて」

無念を晴らす活動続く

1996年9月9日、東京都葛飾区柴又3丁目で当時21歳の小林順子さん（当時外英4）が刺殺され、自宅を放火された事件から30年がたった。解決にはいまだ至っていない。

順子さんの父賢二さんは、娘の無念を無駄にしたいくないという一心で、事件解決や法制度改正に奔走してきた。そのなかで最も大きな出来事は2010年の公訴時効の撤廃だという。当時、殺人罪の公訴時効は15年。その15年の壁で無念の涙をした遺族も多い。迫

る時効に焦りを感じ、殺人事件被害者遺族の会「宙の会」を立ち上げた。

15年を突破したい思いは政権交代などの荒波にのまれ、簡単には届かなかった。

法務大臣を務めていた自民党の森英介氏が時効廃止の勉強会を開催した。法制審議会での検討につながるところまで進んでいたが民主党に政権が交代したことで全て白紙になった。この時の落胆は何にも代えがたいと語気を強める。この頃初めて、被害者の本心を伝えるためメディアに顔を出し

た。

民主党の方向転換後、賢二さんは遺族代表として法務委員会の意見陳述に呼ばれ、国会議員の前で陳述を行った。

ついに2010年、時効撤廃がかなった。娘の死は無駄にならなかったと思うとうれしかった。「お父さん頑張っただろう」と墓前報告をしたという。

現在、宙の会は遺族への賠償の代執行制度の導入、DNAの最新解析技術の導入を目指して活動している。代執行制度は裁判で賠

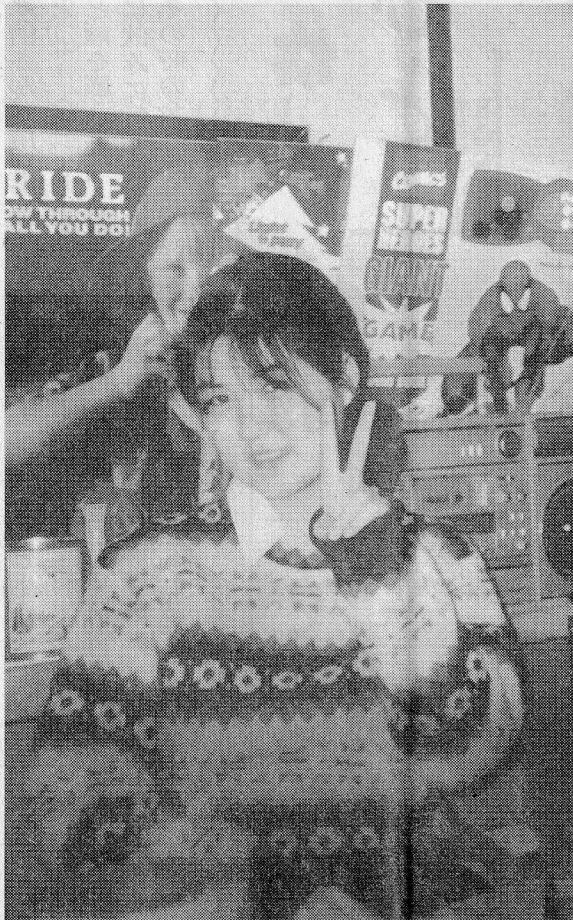
償を勝ち取っても犯人の逃亡や支払能力により賠償のあてがない場合、国が肩代わりし、犯人が捕まった時点で国が犯人に請求する仕組みだ。賠償請求のため民法となるが、同法にはいまだ20年の時効が存在する。刑法の公訴時効廃止は15年以上たったが、民法は全く前進がない。賢二さんはその原因をメディアの無関心だと主張する。刑法の公訴時効はメディアが取り上

げ、世論が形成された。メディアの問題意識の有無が制度の改正に大きく影響する。

DNAが任意採取であることについては、日本の制度的な遅れを主張する。昨年犯人が逮捕された名古屋市中区主婦殺害事件では、犯人の目星はついていて、DNA採取を拒んでいたため長らく未解決だった。DNAの強制採取の重要性がうかがえる。

活動を続けてきた賢二さんは「娘の無念を晴らしたい」と繰り返し。順子さんは、語学力を生かしたジャーナリストを夢に掲げていた。事件は留学先のシアトルへ出発する2日前だった。日用品は既に送っており、その中に、ゼミで研究していた東南アジアの書籍やジャーナリストの書籍もあった。

Ⅱ 2面に続く



小林順子さん（当時外英4）＝遺族提供

上智大生 殺害事件

生きた証を次世代へ 順子地蔵に込められた思い

(1面からの続き)

被害者の小林順子さんの大学時代を知る外国語学部英語学科の東郷公徳氏は「順子さんは周りと仲良くしながら我が道を行くタイプだった」と話す。ヘルパーの会計を務めたり、責任をもつことを恐れなかったり、面倒見が良かったという。事件から30年がたった今、次の世代に伝えていくことが大事だと訴えた。

市民運動から時効撤廃までに至った重みを認識してほしいとも語った。「何をやっても変わらない」と言われる日本で、法律を変えたという事実は多くの希望となりうる。

順子さんがヘルパーを務めていた当時、事務室を担当していた本田由美さんは順子さんと親しかったという。

順子さんが事件の数日前、留学に行く前のあいさつに訪れ、飲みに誘われた。本田さんが用事のため断ると「なーんだつまらないの」と頬を膨らませ、また一緒に飲みに行く約束をした。その時の会話を今でも鮮明

に覚えているようだ。

父賢二さんは事件を忘れないでほしいと強調した。ささいなことでも情報があれば警察に知らせてほしい。自分は関係ないと思わず、被害者遺族の立場になつて考えてほしいと語る。

事件の風化を止めるために、まず「順子地蔵」の存在を知ってほしいという。自宅は取り壊してから20年近く更地だった。しかし、時効撤廃を契機に社会に何か還元したいと考え、跡地を地元消防団に格納庫として活用してもらい、一角に順子地蔵を作った。

賢二さんは、無限の可能性があることを大切に思っ

てほしい、と今の本学学生に伝えたいという。「順子に負けない成績をとって、社会で、海外で活躍してほしい」と語る。(内藤千夏)

情報は亀有署特別捜査本部

(03-3607-0110)

へ。有力な情報を寄せた人には、捜査特別報奨金300万円と私的懸賞金500万円が支払われる。

事件概要		現在分かっていること	
事件名	柴又三丁目女子大生殺人・放火事件	使用された凶器は刃渡8cm以上、刃幅約3cm以上の先の尖った刃物	
場所	東京都葛飾区柴又3丁目の民家	使用されたガムテープは静岡県で平成6年1月以降に作られた1巻幅50mm、長さ25mの一般に比べ、やや高価なもの	
日時・天気	1996(平成8)年9月9日午後4時35分ごろ。朝から雨の肌寒い一日	ガムテープの表面に植物片、木片、犬の毛が付着していた	
犯人、動機など	不明	犯人は怪我を負った。犯人の血液型はA型	
被害者	女子大生21歳	事件発生時、現場では黒っぽいズボンとコートを着た身長約160cmの中肉～やや痩せ型の男の目撃情報のほか、複数の不審者の目撃情報あり。	
容疑	殺人	被害者の両足はからげ結びという特殊な方法で縛られていた	